

紀伊國續風土記

四十六冊

伊都郡 五六

和書門類	二九〇七一號
函	一一一函
架	三架
冊	九冊

内閣文庫	和書類	二九〇七一號
冊	九冊	一一一函
架	三架	二九〇七一號

内閣文庫	
番號	和 29071
冊數	94 (26)
函號	175 201



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

敦
文
庫
印
者

圖書
局
印
庫

紀伊續風土記卷之四十六

伊都郡第五

開田莊

境原村

小名 湯屋野谷

須陀 總二十一箇村

杉尾村

霜草村

山内村

平野村

上夙村

小名 小平

論

内一〇一八〇號

芋生村 イモフ

壑井村 タル井
小名 壇

中島村 ナカジマ

中下村 ナカゲ

上兵庫村 ウヘビヤウ

下兵庫村 シモビヤウ

河瀬村 カセ

以上十三箇村北隅田莊より皆紀川の北あり

下上田村 シモウヘダ

赤塚村 アカツカ

戀野村 コヒノ

須河村 スガ
小名 茶谷

只野村 タドノ

谷奥深村 タニオカフカ

彦谷村 ヒコタニ
小名 峠 同 嶽

以上七箇村皆紀川北南あり

中道村 ナカミチ

右一箇村高野領あり紀川の南にあり
川南の村合せし一箇村此を南隅田莊
といふ

隅田莊南北總て二十一箇村東ハ大和國宇智郡
と界し西ハ相賀莊と接し南ハ相賀富貴此諸莊
高野領に接し北ハ河内國錦部郡と接し幅員東西
一里半許南北三里餘此莊及相賀莊ハ古に賀美
郷の地あり賀美ハ上は義みしし此地紀川上

し事郡の上頭あり故に名を隅田と古くハ
萬葉集小角田川原と出あり粉河寺縁起に寛平
元年此事を記し隅田莊の名あり是莊名此物
み見たり始なり隅田此名義を考ふ所郡中
の東北隅あり地を依り起り於る隅田
と書る所正義とすし今須駄と唱ふ此莊紀川
に跨りて南北を以て稱し南を河南郷といひ又
隅田南莊といふ高野山藏元北城隅田河北莊と
いふ利生護國寺藏永享文書河南郷又上田郷の名あり古



高麗其地甚佳... (The text is extremely faint and difficult to read, appearing to be a vertical column of Japanese characters. It is contained within a rectangular border on the right page of the book.)





此山雄峻... 萬年積雪... 雲霧繚繞... 蒼翠欲滴... 遠望如畫... 近觀如詩... 誠天造地設之奇觀也... 凡遊此山者無不稱頌其美... 予嘗登之... 見其巔巖... 凌雲直上... 俯視衆山... 皆如芥子... 嗚呼... 造化之妙... 不可言喻... 故特記之... 以資後覽... 宣和元年... 某月某日... 某氏某書

名ありし事ハ上田又北莊ヤ二分しく山郷中筋
村の條下み出せり
於稱あり中筋者河南山郷の間をいふ大和街道
筋より出く所名ありそ於稱寶徳の文書利生護國寺藏
あり山郷者山手の方をいふ此莊紀川を挾み
岸高く四方稍開けり平田あり故に隅田上田
等此名ありぬらん國界み至りてハ南莊ハ谷奥
深只野惣野三箇村ハ大和國峯奥深田殿火打三
箇村々對し其中間細き谷川ありてあれを界と
以北莊ハ上夙平野二箇村ハ大和國畑田木原二

箇村々對し其中間信土川を以て限るはと雖今
の國界あり古は界ハ是と異みり大抵山峯を以
て界とせり北は葛城峯三國塚より起りて南は
方信土山あり山岡相連りて長堤を築きし如し
其山の背を以て界とせり紀川の南山岡又南北に
連りて堤の如き富貴村鑛野より至りて折きて東
に突出る事一里許ありて南北方に折きて筒香
莊鑛野に至るありて如く山脉自然連續しと云
我を以て國界とせり然ると記ハ今大和の隸を

赤峯奥深田殿畑田木原の四箇村皆紀國の領内
ありしに隅田莊に隸村あり畑田木原二箇村隅田
莊に隸する事葛原氏隅田地頭職補任狀より出く
境原村葛原氏藏正安峯奥深田殿は名義を以て
元弘以後文書敷通 詳み只野村
此條に出川 中世以來強弱相争ひ遂
に慶元建業の後より因襲して國界を分ちし
り今其姿より承れりなるへし此莊を領すは
も其古い事詳みしかくし中世以來葛原氏隅田

地頭職に補せられ世々此地を領し宗族蔓延し
て或は隅田黨と稱し或は隅田一族と稱し其黨
二十五人あり或は三十一人あり隅田莊中を
分ち領せしあるへし元和封初より二十
五人の内十五人を撰ひ給ひこれを隅田組地士
といひ俸米各三十石を賜ふ其詳よりハ下隅田
黨一條及境原村葛原氏の條下より出せり
○隅田黨
莊中著姓數家あり此を隅田一族といふ其古書

み見えたりを太平記に元弘三年五月隅田高橋
と兩六波羅の軍奉行としく四十八箇所并み
在京の人幾内近國に勢を合せし天王寺へ被差
向其勢都合五千餘人云云遂に楠を爲に打負け
五千餘人其軍兵残り少るに被成這々京へ上
りけり其翌日何者か志くりり六條河原に
高札を立く一首に歌をぞ書りけり

渡邊の水い汁早きは高橋落き隅田流るる
又近江國番場宿蓮華寺過去帳に元弘三稔癸酉

九月九日於近江國馬場宿米山麓一向堂前合戦
討死自害交名荒々注文事 此合戦の事詳み太平記に見えり 高

橋參河守時英同孫四郎業時同又四郎範時同五
郎盛時同孫四郎左衛門元時隅田左衛門尉時親
同孫五郎清親同藤内左衛門尉八村同與一真親
同四郎光親同五郎重親同新左衛門尉信近同孫
七國村同又五郎能近同藤三國近同三郎祐近云
々又畠山記曰永正十六年己卯三月紀州高野の
寺僧隅田一族の領分を争論し上田又四郎と追

崩し其勢三千餘騎吉野川を越え隅田の高橋より
 攻入る家は是よりより岩倉北城より隅田藏
 人葛原三郎兵衛尉松岡右京進榎井五郎左衛門
 尉等三百餘騎より討ち出く相戦ふ云々 詳み下
 壱井村
 岩倉城の條又天文二十三年利生護國寺より於
 下より出り隅田黨誓紙有り其列名三十一人有り又永禄天
 正の頃隅田二十五人の稱有り畠山家より屬し生
 地贄川根來湯川等と同じく屢軍功有り三好實
 休之久米田鬪戦の時隅田二十五人一樣より後光

の指物を指し一族幕北紋を ナゲシヨ 瞿麥あり畠山滅亡
 此後信長公より屬し軍功有り封初隅田二十五
 人の中十五人召出され各三十石を賜ひ隅田組
 といふ

- | | | |
|--------|-------------------------|--------------------------|
| 隅田久兵衛 | 塙坂茂兵衛 | 松岡右京 |
| 隅田作右衛門 | 野口右衛門 | 塙坂仁左衛門 |
| 生地傳兵衛 | 隅田三助 | 野口七兵衛 |
| 竹田仁右衛門 | 西山喜八郎 | 上田傳右衛門 |
| 島孫之丞 | <small>那賀</small> 津田市兵衛 | <small>日高</small> 平井九左衛門 |

右十五人の内或ハ斷絶し或ハ藩士をあり
本系支派はまゝ 變革ありて當時隅田組
少唱ふるも此十四家あり

中道村 上田傳右衛門 松岡四郎左衛門 隅田作右衛門

西山喜右衛門 吉田佐市 中島村 野口太郎

芋生村 竹田竹藏 上田太次郎 中島村 塙坂仁右衛門

平井九左衛門 戀野村 芋生嘉右衛門 中島村 莊大夫

境原村 平兵衛 上兵庫村 總兵衛

其傳ハ各其家の條ニ詳ニ凡

境原村

左邊比婆良 小名 湯屋野谷

田畑高 百七十六石三升二合

家數 四十七軒

人數 百五十九人

相賀莊細川上村の東十一町あり村名相賀
隅田兩莊の界にありてより出たりなほへし小
名湯屋野谷此湯屋ハ浴屋此義あり湯屋産屋
等以村端莊端に置てハ昔此風俗あり

○小社 龍神 荒神 辨財天 合祀 社地周四十間

○小峯寺 寶雲山 法蓮院 境内 東西七町 南北一所半

真言宗古義京仁和寺末

本堂 僧坊 觀音堂

護摩堂 行者堂 大師堂

鐘樓

村中にあり 役行者北開基あり 山臥の行所あり 古ハ寺中五坊 尾崎坊 西之坊 中之坊 東之坊 坊南之坊 ありし由

天正の兵火あり 罹りて堂舎舊記等皆灰燼とす

寺に來由詳ならず 古に寶篋印塔二川十三重の石塔あり 字体見分 り 加たりし末寺五箇寺

あり 村中東光寺 細川上村 阿彌陀寺 細川下村 不動寺 慶賀野村 大福寺 柱本村 極樂寺

寺傳 小峯寺ハ大峯寺對せし名といふ信

否知るハ加らぬ 其餘傳説ありとも皆後ハ附

會々見ゆ

○東光寺 真言宗古義村中小峯寺末

○舊家 葛原 平兵衛

隅田一黨の本家ありして其祖ハ鎌足公二十六
 代ハ裔散位藤原忠延といハ文永五年系圖并
 正安元弘弘安永仁頃ハ感狀建久元久建保頃
 の文書數十通古券ハ類數百通通ヲ傳へり古
書部出せり文書の宛ハ隅田三郎左衛門尉殿隅田
 葛原殿ありあり世々隅田莊の地頭職ありし
 隅田八幡宮の俗別當職ヲ兼たり楠正成と合
 戦しく功名ヲ顯しきも由ハ感狀ハあり天文
 此誓紙ハ葛原忠といふあり亦此家の祖あり

慶長十五年九月其祖葛原與一兵衛といふ者死
 以其墓村中あり來國秀ハ鎗ヲ持傳へたり
 又葛原の祖 朝廷の命を受けし 禁中ありて
 三面の狐ヲ討し事ありといふ文書あり其狐
 の尾ありといふ傳へり今尚傳へる村中
門とりいひし者あり葛原の本家といふ今家
断絶を平兵衛と其同家なるを葛原の嫡流
といふ

杉尾村

須疑乃遠

田畑高 百十五石三斗五升二合

家数 二十八軒

人数 九十六人

境原村の北二十町許あり山谷に間あり在り
る家居散在凡四面山環合して其底にあり
永享に文書葛原氏藏小すこの尾村あり明德の
文書利生護國寺藏小炭尾あり慶長檢地帳にも墨尾

杉尾村

村とあり山谷の隅みしる山に尾筋より出き
る名を海へし今に村名ハ後子轉せしなり村
の乾六所なり又鳥屋に谷やいふ所に瀧あり
をそれ落る瀧あり夜々此瀧あり難の聲あり
やいひ傳ふ其西の側に又高き三間許に瀧
あり何れも水多しなり

○小祠三社

辨財天社 社地周十間明王寺に左あり 八王子社 社地周十四間村中あり

大將軍社 社地周十間村中あり

○明王寺 真言宗古義至井村大高能寺末

村中あり堂下ハ除地あり長祿三年の棟札あり鎮守春日社あり

○不動山

明王寺の後北山あり女人結戒の地あり申に時を過きハ人登らぬ山即此行所あり上り六町樹木茂密木葉道に埋め石角樹根を攀ちて漸升登ゆへし巔に大石磊落あり或ハ丈或ハ五六尺重疊錯落縱横正斜其狀縷形をんか

ら石根多く地を離れ人力を以て運び置
ふ如し竹を以て其空隙を採らに其深さ知
から頂より乾に當り山脚より見通し
大石錯置して是も人お置く如し一奇とい
ぬし相傳ふ後小角葛城より金峯山石橋
を架けんとし一夜に石を此處に集め葛城
に神を以て是を築くを葛城の神夜の
出
字畫ハ出さるぬと橋あらはして石を集め
しをりまゝとやし跡ありといふ葛城石

橋の事ハ靈異記并袖中抄に詳なり金峯山
も大石磊
落と志と錯置し頂上大石を指出る下は三
ありぬといふ
社あり不動金剛童子八大龍王を祭る社地周
十七町明王寺の奥院といふ

○舊家

新右衛門

枚尾村を開發せし家有り弘安年中葛原三郎兵
衛尉忠長より興へしといぬ太刀所持其
外古記物を傳へしと近年火災ならず盡燬燼
といふ

霜草村

志毛久左

田畑高 二百八十五石二斗六合

家数 四十五軒

人数 百六十六人

○境原村の東十一町あり建仁に文書澁草也

あり葛原澁草ハ其地に生ケ草ハ澁草之味可

るなり起るしお能へし 當郡高野領み澁田や

水澁草いふ事見えたり 當村ハ烟草ハ名産也

霜草村

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

以土宜并能應其見之村中に地藏堂あり
 其地は前此田作りと尤賞歌堂前煙草や
 心ぬ甚苦味あり土地の名も能叶へり
 ○辨財天社二社一村の東あり一社ハ
 ○寶幢寺真言宗古義壘井村大高能寺末
 ○地士村中あり

堀内與十郎

蘇草林

山内村

也麻字知

田畑高 七百四石三斗一升七合

家数 百八軒

人数 四百二十七人

霜草村より民北方十町許あり當村平野
 四面山あり一區域城形故山内其名
 あり田畑并に戸口多々此邊の大村あり
 ○辨財天社社地周十五間

山内村

○岨明神 村の西北小山あり古松を神とて田
子二丈枝皆地み付け

○東覺寺 真言宗古義垂井村大高能寺末

村の北みあり境内に八大龍王社葛城明神社
あり高野葛城先達の行所あり又痘神社あり

○壽福寺 真言宗古義垂井村大高能寺末
村中にあり

○安樂寺 真言宗古義垂井村大高能寺末
村中にあり

○地藏堂 村の東端
あり

山内村

平野村

比良農

田畑高 二百二十九石一斗九升一合

家数 三十二軒

人数 百人

山内村の東十三町許あり和州水原村を東
西細川谷が隔てて人家相對れ

○小祠二社

辨財天社 社地周平四間村中に
あり一村の氏神あり 牛頭天社 社地周八十間
村中にあり

平野村

○時光寺

真言宗古義垂井村大高能寺末

村中

平野村

上夙村

迎笑自由久小名小平

田畑高

百八十六石八斗三升七合

家數

四十二軒

人數

百二十五人

平野村の南十九町許伊勢街道あり東ハ大

和北畑田村ノ界以慶長檢地帳ニ宿村トアリ

加勢田莊下夙村ニ對シ上夙村ノ名義

名草郡夙村ニ條ニ辨克街道ニ阿十四軒ハ

上夙村

萬治年中 官より造らしめ給ふ所ありといふ
ふ村に南端切通しけりし道を通は是を戸立
山といふ村中に膏藥坊賣買に不動石 下母の
あり
邊巖下に清水 岩崎井
といふを汲きて煉り弘法に加
持水といぬ不動石は西の山を神倉山といふ
其邊に車越といふ所あり 梅徳天皇神
龜行幸此時御車の越えし所といふ意ふに古
道ハ北邊に有し那らん戸立山といふ西往還
小坂あり大越峠といふ坂に南は粉河田とい

ふ田あり粉河縁起に觀音の佛供田を由を
のせたり今に年々此田より作り出せる茶三
味を粉河に寄れ昔に餘波を遺せり小名小平
を大越峠に南あり

○極樂寺 淨土真宗和州蘓我村光尊寺末

村中あり本堂中堂あり堂下除地あり

○慈願寺 淨土真宗西浜海部郡和歌浦性應寺末

小名小平あり堂下除地あり

○待乳峯城址

○富山記曰天正九年己未八月織田信孝高野攻、
 時志貴若木源右衛門といふ者高野珠徳院丹
 從ひて待乳山に出張し出城此大將とあり戰
 功を顯せやいへとも終丹敗走し待乳の出城
 とり高野へ引退くとあり

○戸立山 前山出

○待乳山 待乳川 角田川 庵崎

待乳山今大和丹屬に 紀和の界古今此別あり
國の界なり故丹古其地を紀州とて和州と
といふ今其地大和宇智郡丹屬にあり後人

古今堺の別な事を知らば古人は歌待乳
 を合をけりより區々を説けり皆誤なり待乳
 川ハ今此堺川あり平野上夙に間紀和の兩山
 相迫りく中間僅か一帶の流を通れ其兩山相
 迫る處兩岸奇巖錯立し亭目、或驚くを奇觀か
 り鳥帽子岩のそ記石不動石なりといふ名あり
 不動石ハ岩に不動を彫付 たり私法に作さしひ傳ふ 川底の岩石敷ふ如
 し堺川紀川丹合流の所古道あり今往還く
 り南方紀川に傍ふ角田川ハ堺川合流の所
 たり相賀莊妻村領鳥帽子岩との間隔田莊

中紀、川北流をいひて別母川ありあはれん或
今の堺川の事也すれとも堺川ハ萬葉集に見
えたる待乳の山川に隔田川原ありといふへ
疑ら川原あり誤り庵崎を早生村の條下母辨氏

萬葉集一

大寶元年辛丑秋九月 太上天皇幸干

紀伊國時歌 調首淡海

朝毛吉木人令母亦打山行來跡見良武樹人

友師母

同三 辨基歌

亦打山暮越行而廬前乃角太河原爾獨可毛

將宿

同四 神龜元年甲子冬十月 幸紀伊國之時

為贈從駕人所詔娘子笠朝臣金村作歌

一首并短歌

天皇之行幸乃隨意物部乃八十伴雄與出公

之愛夫者天翔哉輕路從玉田次叔火乎見管

麻裳吉木道爾入立真土山越良武公者黃葉

乃敬飛見乍親吾者不念草枕客乎便宜當思

ツキミハアラシトアソリニニハカツハシレトモシカズカ
乍公將有跡安蘓蘓二破且者雖知之加須我
仁默然得不在者吾替子之往乃萬萬將追跡
者十遍雖念午嬭女吾身之有者道守之將問
答平言將遣為便乎不知跡立而仇衛

同六

石上乙麻呂鄉配土左國之時歌三首并

中

石上振乃尊者弱女乃惑爾縁而馬自物繩取
附内自物兮笑圍而王命恐天離夷部爾退古
衣又打山從還來奴香聞

同九

大寶三年辛丑十月 太上天皇 大行

天皇幸紀伊國時歌後人歌二首比中
朝裳吉木方往君我信土山越濫今日曾兩莫
零根

同七

羈旅作

白栲爾丹保布信土之山川爾吾馬難家戀良
下

同十二

寄物陳思

椽之衣解洗又打山古人爾者猶不如家利

同

羈旅發思

乞吾駒早去欲亦打山將待妹乎去而速見乎

新載集
離別

頌名知

前冬識定宗

新小り記やう城やうん侍乳山夕城やう河小人乳し

後撰集雜四

吾紀困可待多旅人杯京は此やう多るとまう

あひ待不海うてうぬくと字うらむせん

与一人あらん

山はくや侍乳の山乳後乳侍うと京はくやう

拾遺集卷二

頌志らん

漢人志らん

新古今集卷上

あ忽人杯海川此山乃河多おれ心可うを於多也

頌志らん次

小登小町

誰をのり侍乳の山乳をみかへし旅と旅人可也

同戀二

無寄うと

右上天皇

多れめん人をもつら此山わうと祢あま物をいさひ月

續古今集夏

頌志らん

云磨侍乳

かく汁侍乳の山乳ほとまは心志とやう旅小町らん

同戀二

頌志らん

深念志らん

我せと我海川此山の暮う旅たまはくは京はくやう

百首歌集りし時詩紀 前掲改たし後

以ゆぬに成まほし北山北端ふんたれめらるる云

芋生村

伊毛布

田畑高 三百七十八石七斗六升九合

家数 三十一軒

人数 百十人

上夙村の西南五町許往還北南にあり村中紀川
小添ひて古道あり萬葉集庵崎の角田川原に
歌ありて庵崎に地今詳からん按考は当村
の芋生ハ伊保の音便み轉せしからん然らる

芋生村

庵崎ハ庵村の出崎ニ義あり今村領ニ紀川ニ
突出せり堀ありといへばならん此地竿のく
生きた所
あはれと村名少なきあらむ寛文記ニ村中に
ともいへや其説誤あるべし
青木の太木あり本口九尺八寸廻り其青
森といひ八幡宮御宿ニ由申傳ふといり其青
木今ハ如し
○隅田八幡宮遊觀所 東西三十間
南北十四間 除地
村の西往還ニ南二町あり隨身門あり松大
樹一株あり

○小祠三社

辨財天社 八王子社 二社 三社村領あり
社地皆除地

○東光寺

境内周四十六間
真言宗古義壺井村大高能寺末

村中にあり

○石佛

紀川の流北中あり佛跡を彫りたる石あり
高さ九尺餘あり

○舊家

竹田氏

隅田一族の内あり

壱井村

多留韋 小名壇

田畑高 二百六十九石六斗四升二合

家數 三十九軒

人數 百十六人

上夙村北西十町餘あり村領に岩倉池といふ大池あり村居其堰口あり壱井は名ハ其池水の滴るより出川明德三年文書利生護母國寺藏隅田北莊に宮脇といふあり此村の事あり

壱井村

し小名壇といぬ八幡宮は境内あり慶長檢地
帳母宮之壇村といふ一村といふ

○隅田八幡宮 境内東西二町
南北四町 禁殺生

本社三間
四間 拜殿 樓門 御供所

神輿藏 透廊 鐘樓 僧座

神子座 三重塔今廢りし
礎あり 三昧堂

經藏 護摩堂

末社十八社

若御前社 松童社 加和羅社

今宮 八王子社 四所明神社

若一王子社 武内宿禰社瑞籬の内
外あり

八島社 衣比須社 客人社

邊津意社 春日社 辨財天社

猿田彦社 岩倉明神社

辨財天社 以上三社境
外あり

伏拝所 遊觀所 二所本社
あり伏拝所
方にあり

本社より三町
より其間馬場あり

村の西南あり莊中十六箇村の産土神あり
神功皇后 譽田皇子や共み衣奈浦より

大和國み趣かせ給ふ御道此から此所に暫御
滞留ありまゝの地なる故み後世其遺蹤み八
幡宮を勸請し奉りしを海へし境原村葛原氏
此祖此八幡宮の俗別當職不補せらば長治以
下の補任狀數通あり社傳ありて應保元年空
山上人鶴岡八幡宮を勸請しとる勸請板とい
ふを^紅社を傳へるを^紅社を勸請板といふハ誤り

して此時祭事等此式社鶴岡の例に倣ひて
くりのく誤り傳へしならん舊に七堂伽藍此
社堂備をれり今阿伽井放生池等此跡あり隅
田地頭職は俗別當不補任せらばと見れん
其盛なり事を知らんにあり永祿元年松永禪
正當所を畧せし時社頭堂塔を焼取しといふ
然きやも今は尚十六箇村の氏神ありて古小
ほ及えされやも社頭は壯麗ハ他の宮は此を
べに非ん古文書三四通あり神寶古鏡一枚

有り千數百年を經し物々見ゆ背而も文字四
 十字餘有り朝鮮の文字も交きり文義通し如
 多し寺家の説ハ 皇后三韓より得給ふ
 鏡ありといひ傳ふ或ハ武庫山より奉納せし
 めりやと云ふ

別當 大高能寺 高尾山 三王院

本堂 藥師堂 觀音堂 僧坊

八幡宮境内にあり真言宗古義京仁和寺末
 子末寺二十一箇寺あり

阿彌陀寺 壑井村 東光寺 半生村

中光寺 中下村 圓光寺 中島村

清光寺 上兵庫村 地藏寺 下兵庫村

西光寺 河瀬村 念佛寺 下田村

東光寺 赤塚村 福王寺 戀野村

阿彌陀寺 須河村 總福寺 彦谷村

光明寺 谷與深村 西福寺 只野村

時光寺 平野村 東覺寺 山内村

安樂寺 山内村 壽福寺 山内村

明王寺

杉尾村

寶幢寺

霜草村

不動院

相賀莊細川上村

神職

神主

中島村

楮西左内

大禰宜一人

禰宜

一人

神子

一人

供僧

六人

乾之坊
中之坊
南之坊

角之坊
新之坊

宮使

一人

承使

一人

○阿彌陀寺

真言宗古義大高能寺末

村の西端あり

○岩倉池

村領にあり應其上人の穿る所也と隅田大

池といふ池水六箇材に掛る莊中葛城の水峯

○此池に落川

○岩倉城址

其所詳かり凡畠山記に曰永正十六己卯年三

月高野僧徒隅田一族を領分材争論以上田又

四郎一度追崩し其勢三千餘騎吉野川を越え

隅田の高橋まゝ攻入りより依之岩倉北城より

隅田藏人葛原三郎兵衛松岡右京進樽井五郎

左衛門尉三百餘騎に討て出散々に相戦ふ
終る討負引退者倉を攻動屯事烈火に如くを
アヤハハとも隅田一族堅く守り旬日を過け
北間畠山植長より平大隅守國春高坊太郎左
衛門義順を遣はせ雙方愛ひみ成るとあり疑
らく中島村霜山の城に事あらむ

○舊家

地士 隅田半右衛門

隅田組一族二十五人の一人あり其家傳は鎮
守府將軍藤原利仁の裔みしと世々河内國高

見東代新郷といふ所を食邑といひ天文年間傳
三郎といふ者松永彈正の爲に邑を失ひ隅田
一族の縁を求め當村に移れ天文の誓紙は新
保氏といぬあり是人あらん元龜三年又彈正
襲ひ來り傳三郎討死に其子を市兵衛といふ
隅田に一老あり隅田とい稱し隅田蘆頭とい
は相賀莊細川村長藪城に移る 封初久兵衛
三助作右衛門兄弟三人隅田組地士也 命せ
ら彼三十石宛を賜ふ畠山秋高の感狀を持傳

へ多り
古文書部
み出れ

中島村の地味高は... 田畑高... 家数... 人数... 垂井村の坤五町許あり紀川と岩倉の川と
此間あり古ハ中島北形ありしありむ

中島村

奈迦自麻

田畑高 四百九十一石七斗四升一合

家数 六十五軒

人数 二百五十六人

○隅田八幡宮伏拝所

八幡宮の正面お當り往還の北あり

中島村

○圓光寺 真言宗古義壘井村大高能寺末

村の西あり境内に辨財天小社あり社地ハ
除地ありを別區なるを寺へ取出しをる
所らむ

○霜山城跡

村の北西方あり東西八十間南北五十四間
高さ十間堀廣さ五間深さ二間本丸二丸ノ姿
今も残きり今ハ林山とあれり畠山記曰永
祿戊午年九月隅田一族番城と云々同十一戊

辰年十月遊佐勘解由左衛門尉直基畠山秋高
と迎へ奉り伊都郡壘井村の北岩倉池北西下
山の城入り奉りとあり下山城是あり里人
唯畠山殿城跡といひ傳ふ城跡の少し東あり岩
屋と稱をふり北あり古墳あり

○舊家

地士 花岡増古衛門

其祖を隅田孫四郎といふ隅田二十五人北其
一あり隅田の食邑河州あり多し河州花岡村あり
陣屋を構へ一族煩番に誥む孫四郎在番の時

一族知行没せらば孫四郎北より花岡村に住
し遂に花岡と稱は後當村に末に代々地士と
なる畠山氏等の感状文書七通を持傳へたり
古文書
み出に

地士 野口國太郎

隅田一族の一人あり天文の誓紙に野口澄秀
とあり此家祖なり其孫南右衛門封初
三十石を賜ふ後地士となりて代々當村に住
り

地士 塙坂仁左衛門

隅田一族の一人あり其祖を塙坂出雲守とい
ふ當郡名古曾村に住り天文の誓紙に塙坂出
雲秀とあり此人ありし其子小右衛門中
下村に住り其子孫兵衛より當村に住し二
子と共に大坂に籠城は後封初の時三十石
を賜ふ

中山莊大夫

隅田一族の一人あり舊ハ戀野村に住り今

土居と唱ふる地あり明和中當村に移る天文
此誓紙中山貞也あらず此家の祖あり一空
といふ人此文書と藏む古文書部
み出れ

中下村

智字牙

田畑高 百九石八斗四升六合

家数 二十九軒

人数 八十九人

草生村の西五町許あり村の名義詳あらん
或る村中多く中田下田あり上田あり故に中
下村といふなりへり恐らくは鑿説あらん隔
田八幡宮の文書に祭料に擧げり中村あり十

貫下村より十貫とあり今隅田に中み中村下
村あり古二箇村ありし村一村としと音は
中下と呼びしあらん

○小祠二社

山王社 社地周三十間西の森といふ所あり 辨財天社 社地周十八間東の森といふ所あり

○中光寺

境内周四十六間
真言宗古義垂井村大高能寺末

村の北にあり

○高橋

村に西北に橋あり高橋といふ川を高橋川と
以て岩倉池の水流紀川に落る所あり此邊に
高橋判官居住せしやあり高橋判官ハ平家物
語に出づる太平記に隅田高橋とある高橋ハ
此所の人を指すし 太平記の文莊論に條あり載ん 高橋椿とて
花形に少しかしこき椿あり古ハ大水形
しる今ハ枯きも小木の椿を植ゑたり

○賣藥家

村中利助といふ者愈癰散といふ癰の藥仙命

青木利助

膏と以て切疵の妙薬あるを製しく諸方其賣
出に利助に先祖應其上人岩倉池に穿る其頭
取世話を固りて上人自筆に書翰を贈る家に
傳へたり又其家其静に舞の衣裳の切ありと
錦の切に藏む又寶珠舍利あり是ハ弘法能
作生也といふ

上兵庫村

迎美比也字吳

田畑高 百五十五石三斗二升六合

家数 十六軒

人数 五十七人

中下村の西四町半街道あり村の名義下兵
庫村に詳あり

○清光寺 境内周三十八間

真言宗古義至井村大高能寺末

上兵庫村

村中にあり

○城跡

中島上兵庫兩村の間北岡山にあり長さ三町堀切等北跡あり村中惣兵衛の子なり先祖平野彌大夫同權平北居城の爲彌大夫權平父子等もに大坂ふるに戦死す第次郎左衛門古郷に歸り農民とあり

○舊家

平野氏

代々當村に住り事ハ城跡の條にあり

下兵庫村

志毛比也字吳

田畑高 六百六石九斗六升九合

家數 八十六軒

人數 百六十八人

上兵庫村の西北方往還にあり正安北文書小利生護國寺藏西兵庫のあり上下二村舊ハ一村あり古記文書にも唯兵庫村とあり慶長檢地帳には兵庫村上兵庫村とあり然るに下兵庫ハ本

下兵庫村

村ありし兵庫の名此地を領せし人名より
出た依おれし護國寺此傳へ下兵庫村ハ
舊ハ寺地村とく寺の領地ありしぞい婦果し
亭然りや否を知らん村北西端ハ閣ミヤといふ小
名あり家敷軒茶屋三四軒あり饅頭を削し
閣饅頭といぬ

○小祠二社

辨財天社 二社皆村中あり
天神社 除地あり

地藏寺 真言宗古義垂井村大高能寺末
村中にあり

○利生護國寺

覺王山 利生院 境内高二十石除地外ハ森周二町
真言宗律派南都西大寺末

本堂

方五間

釋迦堂

護摩堂

僧坊

庫裏

施餓鬼所

周四町許

村の北ハあり真言律三十四箇寺ハ一ハしと
行基菩薩の閑基あり行基 勅授受けと畿内
小四十九院を作る護國寺其一ありそ古
兵庫寺といふ 古文書に見ゆ 數百年此後伽藍坊舎悉
頽廢し兵庫荒野芝のふ沙彌願心といふを

此北地を知行し弘安中當寺に寄附し最明寺
時頼再興にといふ永仁六年關東祈禱寺を三
十四箇寺と定めらば本國ありの當寺及び金
剛寺妙樂寺寺脇村と三箇寺あり其定書に當寺
を利生護國院とあり 南朝の時代は 繪旨
院宣其餘寄附狀等數通あり中古當寺隅田黨
北氏寺とあり其黨の連判狀を傳へきり庭上
に大樹の松あり太閤駒繫の松といふ文祿三
年太閤秀吉公高野參詣の歸路此寺あり止宿

ありしといふ本尊大日一行基の作其外釋迦
像皆古佛あり殊勝あり 佛畫數幅あり古の堂
舎の跡今田地の内あり多くあり 藏むる所の文
書委古文書部
に載

河瀬村

加字是

田畑高 三百七石五斗八升六合

家数 二十八軒

人数 百二十五人

下兵庫村の西往還にあり古記文書あり神瀬
又高瀬をかけり村居紀川も添へ流ハ河瀬北
谷河原形らむ

○辨財天二社 並母村領
にあり

河瀬村

○西光寺 真言宗古義壑井村大高能寺末

村に東母あり古き地獄の畫大幅五幅あり拙
畫ありしり三百年も歴し物定見ゆ

入港 百二十五人

倉庫 二十八棟

田畑高 三百七石二斗四升一合

西館誌

時宗長

下上田村

志毛宇遍歌

田畑高 四百七石二斗四升一合

家数 四十一軒

人数 百四十九人

下兵庫村に南四町許ありて紀川に隔て
相對以上田ハ其名古し靈異記に紀伊伊刀郡
桑原之狹屋寺に事を記せば條々上田三郎と
いふに此所り此地に住して其名以家あらん

下上田村

南隅田莊を上田郷といふ其地甚高く相賀莊
といハ格別に段をぬき故に上田に名起るあら
ん下上田ハ上田郷の内北川下にはあるを以て
下をいふなり慶長檢地帳ありた上田村と
あり中道村高野山に寺領ありし時高不足
あり此村より五石餘其不足を補ひしといふ

○小祠五社

大將軍社

社地除地村
の坤あり

八幡森

社地周八間村の東
あり今社あり

八王子社

社地周八間大峯
といふ所の西にあり

松尾社

社地除地村
東端あり

辨財天社

社地周二十四間
村の西端あり

○念佛寺

真言宗古義壱井村ハ高能寺末

村中にあり境内ハ八幡社あり社地ハ除地を
と舊別區ありし形なり

○廢寺二箇寺

圓日寺跡 奥南寺跡

圓日寺ハ禪宗奥南寺ハ地頭小島壹收守とい
ふ人此菩提寺に由あり西寺廢せし時圓日寺
に本尊ハ高野へ賣り奥南寺本尊地藏ハ今村

中にはあり

○小島壹岐守屋敷跡

村中にあり土居といふ此村の領主といふ隅

田に一黨あり其の婦今泉州の陶器莊に移り

住名草郡山口の小泉與大夫、此家より養

子に往來しなるといふ

○地士 久保吉之右衛門

○金刺寺 其の寺に...

赤塚村

阿迦都迦

田畑高 三百五十五石七斗六升三合

家 數 三十軒

人 數 百十二人

○下上田村の東十五町餘あり村に名義詳を

らに村中み土居跡あり上田氏の下屋敷あら

ん又清水に井あり大師の加持水といふ

○小祠八社

赤塚村

○八幡宮二社

衣比須社二社

水神社

辨財天社

五大明王社

八王子社

以上八社村領に散在し社地皆除地あり

○東光寺

真言宗古義壑井村大高能寺末

村中にあり

○地藏堂

隅田八幡宮伏并所あり除地あり

○古墓

○村北坤にあり上田播磨守北墓といひ傳ふ

○地士

田中助三郎

戀野村

古比農

田畑高 四百八十三石三斗三升

家數 百五軒

人數 四百三十五人

草生村の川北南赤塚の東にあり名義詳あり
北村北西端赤塚村との界に細谷川あり其
谷に掛る橋を糸北掛橋といぬ又其所に通す
坂道を糸の細道といふ中將姫當麻より在田

郡子通へる路ありとせ橋の東南に雲雀山と
いふ山あり其南十町許山中に中將倉といふ
岩山あり中將姫の住し處といひ傳ふ中將
事かく事蹟を傳ふる其故詳村の西に山王祠
あり祠に樹を纏ひて上り登る事幾大を知ら
三寸櫃の樹を纏ひて上り登る事幾大を知ら
魚のうらみ藤の太樹かく此のや記を他國にも
稀なる村の良和州界と東に和州火打村を
見此間の谷を只野川といふ少し西に琵琶り
甲斐といふ岩あり相傳ふ弘法大師不動の琵琶
の彫けたり因に此名

い高と壁立しと水を出る者高々五間横十間
餘削り成る如く最奇絶あり

○小祠六社

八幡宮 辨財天社 大將軍社

小社三社 以上六社村領に散在
に社地皆除地あり

○福生寺 真言宗古義壘井村大高能寺末

村中にあり境内に經藏あり堂地除地あり

○舊家 地 芋生作助

文書數通を藏む 古文書部
あり出たり

○地士 坂太郎七

六十人の内

○書房

○

○

○

○

○

○

○

須河村

須賀字 小名 茶谷

田畑高 五十五石三斗二升四合

家数 二十五軒

人数 百四十五人

○赤塚村の巽十八町子あり溪北子向ひ少しく
瀾けたり天文の頃新子開起し村あり天文十
九年上田家より須河谷を開くおやと免に文
書村中源五郎の家にはり須河谷ハ菅生谷也

須河村

義おしく山菅此生ひ茂りたる谷おしくありし
形らん小名あり茶谷といふ

○川津明神社 社地周百間
村中あり一村の氏神あり拜殿并末社衣
比須辨財天山神等あり

○小祠二社
明神社 八王子社 皆除地

○阿彌陀寺 真言宗古義壑井村大高龍寺末

只野村

多勢農

田畑高 七十六石一斗二升三合

家数 十軒

人数 五十三人

○戀野村の東南十六町許あり慶長檢地帳に
田戸野村とあり谷此中にある兩山對立し
中間に谷川一條あり是村紀和の界を以て村居
谷お傍ひて散在は古ハ田殿と書は今大和に

只野村

田殿村あり只野と相對しく一細流を隔たり
のし舊ハ一村あり國塚古も變りしより分ち
て二箇村もあり文字を以て分ちしなり

○川津明神社 社地周百四十間

村の南あり本社方四并殿末社等あり

○小祠三社

ハ王子社二社 辨財天社 三社皆除地あり

○西福寺 真言宗古義座井村大高能寺末

村の南あり境内古墓あり永祿中和廿野

原象隅田に一黨高野山僧と合戦の所あり
其時討死に人々墓あり傳ふ此邊に旗立場
あり地あり

谷奥深村

多爾於夫迦

田畑高 四十六石五斗八升四合

家數 十三軒

人數 五十七人

只野村の南二十四町あり東ハ大和と堺を
鷹長檢地帳ハ谷大深とあり名義谷尾深の
義あらん只野より兩山北間一條の溪水あり
ひく谷奥深より至る溪中大和の地近年多く桃

谷奥深村

と種急を桃源の如し村居此両面山益高く谷
益窄りと薬研の底に居るの如き日光を視る
事暫く此間あり大和の峯奥深村と相對に峯
奥深村を田殿村と同様みし古の本國此地
にしく谷奥深村や一村なり谷の窮りの高野
領の西富貴村ありして細谷川下を只野を經高
戀野や大和火打村と此間を流る紀川に入り
此當村より彦谷村へ越ゆる峠を堀切やいぬ
峠の十字街あり西に下れば彦谷へ行き南行

は神ハ筒香あり北行をきハ橋本なる牛馬通
して道宜し峠より望めハ四方皆峯より波濤
此重疊は海に如き深山といふべし

○川津明神社

村の西南彦谷へ越ゆる山際にある村中の氏
神あり只野谷奥深彦谷須河四箇村皆川津明
神を氏神とし本宮ハ峯奥深村にあり峯奥深
大和領にありしより村々引別きて各村に祭
を來せり

○八王子社二社

共母除地あり

○光明寺

真言宗古義壑井村大高能寺末村の西南あり

○七霞山

村より登り十八町餘此邊北高山あり東南ハ寺領富貴筒香に亘る故母又筒香莊母出せり

彦谷村

北古多爾

小名

峠

嶽

田畑高 百十九石二斗六升九合

家数 二十一軒

人数 百二人

谷奥深村の西二十五町あり彦谷は彦と彦

山彌彦山は彦と同一義也し郷音は谷の義を

取し萬葉集母山響の字取やまひとととめ
よ欠り谷中響と注せり俗にたまたまひり
新六帖母世に中母空志取谷は、をとり

れ山彦之 名はけりめけん
河り彦の 義比、又^文あ^五く明あり 小名峠嶽の二所
あり

○川津明神社 社地周百四十間

○總福寺 真言宗古義壱井村大高能寺末

○舊家 上田甚五郎

隅田組の一人あり 武具等備より持る調度を

とも多くあり

○舊家 地士 上田嘉重郎

文書を藏む 古文書部
小出氏

書 寫 神野聰一郎

圖 畫 野際 蔡春

龜井 進

原 卯吉

校 合

紀伊續風土記卷之四十七

伊都郡第六 高野領

志富田莊 紫夫田 総二箇村

西志富田村

東志富田村

志富田莊總々二箇村東々平沼田村と界一西南
々麻生津莊と接一南々皮張村及四村莊と界一
北々紀川筋及加勢田莊島村と界一其廣袤東西
一里餘南北十二町許志富田々丹生告門と澁田

莊論

此庄を平三ノ二ノ一接々
師岡正隆



一里嶺南此十二...
 此山嶺南此十二...
 嶺南此十二...
 嶺南此十二...
 嶺南此十二...
 嶺南此十二...
 嶺南此十二...
 嶺南此十二...
 嶺南此十二...
 嶺南此十二...



邨乃御門代御田作給ふやある澁田みく古記多
くし澁田の書に志富田の書も建武四年の文
書に始めく見はる東志富田村又康永二年の文
書に志富田庄内字佐本谷云々と見えたり天野社
萬葉集に水澁の語あり水のさひたるをいふ又
隅田庄霜草村を建仁の文書に澁草村と書に并
せ考ふるに澁田は田地のわくはるさ田をいふ
なり志富田の文字に改めしむ此村甚貧村なる
故に訓同一をとりて好字に改めしむ里人の

へは此庄天承元年より根來寺領となり後高野
寺領とふは谷川三河より一ハ南の方四村谷より
流も出く東西兩村の間を經り紀川に落つ次は
西村の西の方より出くとも小紀川に入る其西
にあるを鬼泪川オキナミダといふ

西志富田村

尔志志夫田

田畑高

四百三十一石四斗三升一合

家數

七十九軒

人數

三百二十四人

加勢田莊島村の南五町ハ河ニ村の西ニ橋有あ

ミケツト
重綱橋有ハ

○若宮

境内周五十六間

本社祀神 蟻通明神

末社二社

辨財天社
多聞天社

村の良二町餘より蟻通明神の説東志富田

村の條よ出た

○小祠二社

大將軍森

社地周二十七間村の坤十町
よ河に社樹を祭る社あり

里神社

村の南二町半より祀神蟻通明神なり土人森田
の鎮守と呼ぶ庄の氏神蟻通明神御休息の所なりといふ
村の申の方五町半餘字白原といふ所

○地藏寺

○地福寺

村の成の方二
町半餘より

○長福寺

村の巽三町半餘より
河に本堂僧坊あり

○廢寶福寺

村中より古ら七
堂伽藍かりといふ

○小堂二字

大日堂

境内周三十四
間村中より

一病地藏堂

境内周十六間村の西四町餘小谷一病といふ
ふよあり弘法大師一病せよ所なりといふ

○妹山

村の西より紀川の南の崖に臨み北の方
兄山より川を隔て相對に東西打越八町許南北
五町許頂上廣く平あり唯草叢生るのみ
総て樹木なく兄山に對しを以て古人妹山

少號はく萬葉集よせの山よたふ小むうんは
 妹の山や詠しきる則是かま里老の傳へ小昔
 雛子長者といふ豪富は此山上に居住は故
 小雛子山やも長者屋敷といひ其下の川邊
 を雛子川原といふやいへま 妹山は川の北と
 山の山裾よと別な峯をふれよのよあさふ
 よ似きま且里人多く長者屋敷と呼ぶを以て
 後人或は妹山をふらといひ或は川の中よあ
 不船岡山を即妹山からんとつふ説あり皆地
 形を審よせよる謬説ならずと按りよ粉河寺縁
 起小曰伊都郡法田村寡婦富人字大刀自貴信
 於觀音靈驗運其住宅改草庵為精舎と見えさ
 と所謂法田村の寡婦ハ則此雛子長者の寡婦

ふる一又淨瑠璃の章曲よ雛鳥の事を作す

○岩戸山

○妹脊井

○院墓

○額墓

廢寶福寺の上の方よ
 村の中の方
 八町よ
 境内周四十四間村の
 坤十三町山上よ

妹山の西糠塚山よは院墓に織田氏高野責
 の時僧徒院號はるもめ戦死せしを埋し
 ららん額墓を其餘の戦死の者を埋しや或
 敵の首を埋ししけらん 額を虫又むふ

他所より額塚と稱する
内々皆首塚といふなり

○天澤 院墓の良

○舊家 地士

奥田喜太郎

家系詳なり正和の文書三通を藏む

古文書部
より出せり

○地士四人 宇治貞右衛門

湯浅清右衛門

森田勘右衛門

森岡兵左衛門

東志富田村

比賀志志夫多

田畑高 四百十八石五斗八升一合

家數 七十軒

人數 三百二人

西志富田村の東より村居接以

○蟻通明神社 境内周八町餘

本社 方九尺

末社 四社

毘沙門社
辨財天

衣美須社
大黒

八王子社

留主事社

村中ふあに一莊の氏神なり蟻通明神祀る神
詳ぬらに今按てふ高野山藏むる所の正應
年間の文書は天野三之宮氣飯神社を書して
蟻通明神とも然れる蟻通明神ハ即氣飯明神
の別名あるへ毎年正月十一日御田植をい
へふ神事あり神職禰亘つるに田植の状を
のりく米を蒔く参詣の人ふを拾ひ十五日

の粥は入を食して年中の邪氣を除くといふ
二月十六日六月晦日八月十八日神事あり境
内留主事社を神職の祖先を祀るといふ十月
十一日留主事祭と稱し専此社の祭を那に
瑞籬の内は自然石を雕り高麗豹と云ふ
高さ五尺許なり小兒兩足の間を多くま
とる疱瘡かろといふ本社は北四十間許は遊觀
所あり前は周圍一丈八尺の杉樹あり又周圍
一丈三尺許の大藤樹あり花の時甚奇觀あり

又檫の大樹あり神主井瀬川氏あり

別當 神宮寺

氏神の側小河に本堂釣鐘堂僧坊等あり

○大將軍社 社地周五十間村の西

○釋迦寺 境内周四十間

○儀覺寺 境内周五十間

○現福寺 境内周四十間

○西方寺

○金折寺

○觀音寺

○西明寺堂

○清譽庵 以上各村領所

○廢滿願寺 井形山

村の西二町許山上あり今藥師堂一字の
存に境内南より向ひく溪あり四村谷といふ
村莊の水此小來る藥師堂の東二町許に大岩
高く聳えたるは岩邊に井形あり其傍小大
師の石像を安置に此地眺望最と下は三重

のぬき水瀧の底に高麗狗の蟻
通明神前の雌狗のひ傳ぬ

○雅真僧都墓

村中より弘法大師の法孫あり事高野山
の部より出き

○鞍出淵

紀川筋より崖際水中に良に向ひて穴あり

周四間許深さ知ふものふ土人より昔人天

野の魚板淵あり馬より水飼ひて馬過りて淵

系沈む其鞍此所小出づ故に鞍出淵と名づく

いふ此穴より五尺許の鼈カメありていふ

○舊家

志富田氏

元祖を兵衛太郎といふ當所の領主なり建武

の頃南朝より屬せり足利家より南朝を

討奉るるの御教書ありて下文より出せり外

り後醍醐天皇宸筆の色紙畠山修理太

夫より與ふ雪舟の墨畫屏風守國の刀月山

刀等を藏む天正中より土民より宅地東西

一町南北一町餘の地子孫今荒川莊に移り
廢帝御坐河内國之間凶徒可成内通尔紀州
由有其聞早属畠山阿波次郎殿馳向且攝
要害差塞道候上可誅伐凶徒之状如件

建武四年正月二日

判

志富田兵衛太郎殿

○地士

久保田民右衛門

四村莊

與牟羅 総四箇村

星川村

星山村

御所村

日高村

四村莊総々四箇村周僅々三里許一の小溪あり
志富田莊の南めり東を天野莊に接し西ハ友
淵莊及那賀郡麻生津莊に界し南を志賀莊小界
以三面山を負ひ北の方開々其溪流志富田莊

莊論

西村の間、注き紀川、落つ四村、莊の名、村數
みと、さく名つくふあり星山、星川、も莊中の本村
み、其名此地の大名ぬ、里人の傳へ、昔星
墜る事、何より起、上よ在を山、下
よあふを川、名は多し、此地即丹生、祝文よ
出、丹生の社地、西界及御手印、縁起載る
所、高野の四至、西界、星川、とある地、即是、あり莊
中、墓所、火葬を禁、傳へ、いふ、莊中、往古
も丹生明神の神職の者の居地、あり、

星川村

保志迦波

田畑高 百石三斗四升一合

家數 二十九軒

人數 百三十八人

志富田村の南八町、あり、村名始め、嘉禄三
年の文書、見申、天野社藏、村居谷川を隔、東西よ
分、名義星山村の條、載、
○八王子社 境内周四十間

星川村

本社方五尺丹生明神合祀

東星川の谷の端より一荘の産土神あり下の八王子小對して上八王子といふ境内に觀音堂あり天文十二年元龜二年同三年の棟札あり昔より社事嚴に執行ひいと見ゆ神主を久保氏といふ御所村に住す

別當 神宮寺

佛ありといふ
宮の境内より寺あり虚空藏あり當社の本地

八王子社

境内周六十間

本社三扉五尺三寸丹生明神合祀

上の八王子社より一町半許下谷の西より又一荘の氏神あり上の社に對して下宮といひ又古宮といふ上の社の境内にあり觀音堂あり當社の本地堂ありやいふ按てふよ上下二社祀神今一神なりとも祭日異なりや上宮月十三日六月十三日十一月十三日下宮八月九日午の日六月丑の日
ありえ舊ち同社よりありありむ相傳ふ往

古より専當社を氏神とせしは大水ありて社流失
せしは是上の八王子を氏神とせしといふ往古
に當社を異神を祀りしは後世八王子を莊の
氏神とせしは亦八王子を舊の氏神の地と
し建立せしなり今の本地佛と祭日とも舊
の氏神の遺事ありし

○八幡宮

境内周二十四間

西星川より一村の氏神あり

○犬福寺

東星川より本堂僧坊經藏等あり寺より三
町餘末の方高き所に感應山といふ伽藍趾あ
り夫より三町許小谷を隔て南の方より塔屋敷
といふ所に何きも礎石なり存に舊弘法大師
建立の寺ありしは天正の兵火より焼失りて
今大福寺の本尊薬師より即古伽藍の本尊とい
ふ其餘堂内の佛皆古佛あり地藏尊あり最殊
勝あり不動あり殊に威容あり最大佛あり小堂
より藏むべきものありしは皆古伽藍の佛なら

ん亦脇士廣目多聞の二天を伽藍中門の佛ふ
感應山古伽藍の時の山號大福

○不動窟

上の八王子社の傍の谷より

○城屋敷

村の東山上より織田氏高野攻の時高野よ
り若と築きし所といふ

星山村

保志也麻

田畑高 六十一石八斗七升八合

家數 二十八軒

人數 百十人

星川村の南六町許より當村八幡宮の南一
町許山の原より星岩といふあり大さ方六尺許
村名星の墜きよるに名つく星岩と星の墜る
石やふたりありといふ

○辨財天社

村の西四町よりの一村の氏神なり

○八幡宮

境内周百二十間
本社三八王子天満宮合祀

末社 稻荷社

村の巽よりの峯の森といふ又一村の氏神なり

常福寺

境内周九十六間

村中よりの境内よ八幡宮あり古き鰯口あり

銘よ文明二年十月六日順禮堂備州新田莊
寺見村施主千代村太郎五郎寅之歳といふ

○舊家

宇野源次兵衛

家系よ據るよ元祖ち六孫王經基七代の孫宇
野七郎親治といふ親治六代の孫を大炊助義
治といふ戦敗して家族と共に當村よ來り公
文岡田某の家よ寄る岡田氏子なり義治を猶
子々に織田氏高野責の時義治六代の孫甚左
衛門朝治高野よ與力して織田氏の軍を防ぐ
朝治の子を喜大夫治昌といふ大坂よ籠城し
て戦死し治昌の子を源兵衛信治といふ當村

の名主たり子孫代々此地に住以家々永徳二
年の御教書を藏む

御所村
昔志與
田畑高
百十九石三斗二升六合六夕
家數
三十三軒
人數
百五十四人

御所村

昔志與

田畑高 百十九石三斗二升六合六夕

家數 三十三軒

人數 百五十四人

星川村の南八町より人家所々散在に村

名古高野 御幸の御假屋ふと建て

地ぬき起る路へ 村中星川村八王

家を御所と呼ぶ傳へいふ古天子行幸の時
此所あり御脳より路傍の石に御腰を掛り

御所村

給ふ今よ御腰掛石といふ其邊の松樹
を葦葉の松といふ今ハ枯失せたり御
其事慥ふ証なり水と村谷よ
れ或る然事ありふらん

○小祠二社

天神社

社地周百二十間村の南
一町より一村の氏神なり

天神社

社地周四十間村の
西五町山上より

○薬師寺

村中よりの境内よ般若経藏及釣鐘堂鎮守八
幡宮あり寺の坤少一離と堂あり此寺の本
堂めく堂屋敷除地あり本尊薬師外よ地藏勢

至十二神将等あり皆古佛なり多くは星川
の伽藍よあり佛を此よ移せふと地
藏尊ふ少他よはありさ大佛ふと根来寺
の塔も覺鍬御所村の塔を移したるとい
ひ傳ふ

日高村

比駄迦

田畑高 四十九石五斗五升

家数 二十五軒

人数 百十一人

御所村の巽十五町より星山の西よりあり

東面の原ふと名義と郡の日高と意同し

○三社明神社 境内周八十間

日高村

○村の北一町餘より祀神太神宮八幡宮春日
明神めく一村の鎮守ふじ

○阿彌陀寺
村中より持佛堂大般若經藏等あり

○地藏堂
村の西二町餘日高峠よりあり麻生津より高

野街道六地藏の第四あり

三谷莊 美多爾 総三箇村外二村附

寺尾村

瓦居村

三谷村

平沼田村

皮張村

三谷莊三箇村平沼田皮張莊各あり今地形より建
て姑當莊に附あり総あり五箇村三谷郷の名あり建
仁以下の文書に見あり申あり天野社藏此地東あり官省符莊あり

莊論

接し西多志富田莊界し南ハ四村天野兩莊
 接し北多紀川を隔り、官省符莊と界し寺尾兄
 居三谷皆山の裾に村居し平沼田皮張り山中に
 あり大抵梯田斜田より平田少く莊中小谷多し
 皆北方紀川に落り按りふし三谷村莊中の本村
 あり村中東西中と三谷あり因りし三谷の名
 起り莊名亦是りし出るあり

寺尾村

天羅遠

田畑高 五十九石八斗九升八合七才

家數

十九軒

人數

六十八人

○志富田莊東志富田村の東にあり古村中山の

尾崎に南藏寺あり寺尾を以て

地の小名として後遂に一村の名となれるなり

～ 按りふし村中辨財天社明和四年の鵜口
 の銘に沼野上村とあり辨財天社の北に

寺尾村

大ふる沼の北に沼野上村本義を得るに似たり
正保圖に野々上村ありと沼野上村の轉
りふふ當村より天野明神の方一里許より

○辨財天社

村の北より一社の鎮守あり社方四尺境内

み別當天女寺あり社の森の北より大沼あり古
の紀川筋といふ

○小祠二社

八王子社 村の坤西坂に
辨財天社 村の巽の方
高野嶽山の

○南藏寺

裾より河に社前より清泉あり
加井といふ一村の飲水といふ
寺尾山 境内 東三町
南北二町

大師堂

観音堂

釣鐘堂

鎮守社

不動石像

村の南三町より此地を寺中といふ高野山
の乾の尾崎あり古弘法大師伽藍を茲に開基
し避寒の地より寺院三十六坊あり天正の兵
火より寺院堂舎悉焼亡し今僅に小堂一二宇及
三藏院の残あり其他寺院の名今田地の字

よ残を三十六坊の内六坊の株今高野山

り大師堂燈明料二斗五升伽藍修覆料三石

九斗を寄附に境内石不動高野葛城先達護

摩修行の處ふ古寺大相林並に山門基

古三十六坊

本坊南藏寺

三藏院

現存

俊藏院

幸福院

養福院

水本院

來福院

以上六院寺株以下只名の存に

凡梅院

北之坊

瀧藏院

正藏院

地福院

善慶院

成慶院

來徳院

阿彌陀院

成智院

己淨院

利福院

林藏院

積藏院

長床院

念佛堂

養智院

梅本院

明王院

谷福院

門之坊

元福院

正藏院

阿遮梨寺

長壽院

中之坊

榮壽院

教泉院

平壽院

教善院

三藏院

村の南三町寺中、西に古三十六院、其の一と

心小釣鐘堂あり

鉢本

林清子坊鉢藏

鉢本

斎宮御成寺

鉢本

中興寺

鉢本

五藤野

鉢本

鉢本六院寺北之故以下六院蔵

兄居村

阿弥草堂、此の村に於て、其の

田畑高 百十六石六斗二升八合三夕一才

家數 三十七軒

人數 百五十人

寺尾村の東五町紀、川邊より兄居、舊安兒井

と書以名義詳なり、以當村喜三右衛門、

者楠氏の系圖を藏以

○諏訪明神社

境内

東 三十六間
西 三十六間
南 三十九間
北 三十九間

鎌八幡宮

經藏

拜殿

御供所

村中より鎌八幡宮を社壇の中は標の大樹
あり圍二丈許是を神とし祭り鎌八幡宮と稱
し別は社ふし祈願の者鎌を標樹に打入是
を神と獻ふといふ祈願成就せしむ其鎌樹
よ入るは次第は深く叶はざる者ハ落つと
いふ根より上二丈許の處鎌を打つこゝ蓑の
下より寸地の空隙あり鎌の深く入るものと

樹中を貫きしは刃外は出る事一寸餘あり
實は奇といふへし其鎌を大小好し従ひ社前
小賣ものあり祈願の者或る一時は千挺も打
者あり然るは其木鬱葱として繁茂に事左
の碑文は詳なり舊村中諏訪次郎右衛門とい
ふ者村の鎮守諏訪明神の境内に假殿を造り
て八幡宮を奉り神靈社内の標樹に託す標樹
の側の小社を諏訪の神なりと鎌八幡宮の名
盛めし本社を人々誤りて或る誤り

天照太神宮と云ふ諏訪の家代々神主たる元
和六年の火災は舊記灰燼とあり傳説の詳
を失ふ諏訪の末葉今望月嘉八郎といふ地
士めく神職を兼たし高野山より鎌八幡宮神
酒料として大豆高六斗寄附あり

石楯は櫛の字を用
ふは俗に從ふなり

三谷莊兄居村鎌八幡記

造化之理鬼神之迹交錯糾紛非智力之所得而
測而威福祥殃不可得而誣焉則尊奉惟虔焉耳
亦安暇求其所以然之故哉伊都郡兄居村高野

管内也其地有神稱鎌八幡無祠以一大石楯樹
為神像相傳神元在讚岐國屏風浦以旗與長搭
為神像長搭俗呼熊手ハ神后ハ征韓之日軍
中所用祀以為神云弘法大師開高野山以為隱
棲修禪之地神追至于茲土人取而寄之楯樹然
後告於野山山僧來而迎神以祀諸山上今所謂
熊手八幡是也其寄神於楯樹僅數日神靈遂憑
此樹能為威為福祈禳輒應焉故遠近香華無虛
日矣稱曰鎌八幡其稱鎌者何由神之所好而稱

之也其好者何蓋人之祈神者必釘錘於樹身稱謂獻神錘大小有等多少惟其所欲或十或百或千素無期極蓋樹高五丈許圍三抱大幹直立去地三丈許始有枝葉鬱鬱蔽數十丈之間大抵釘錘自根以上二丈許遍體無空隙重疊稠密殆如蝟毛其始釘入樹僅二三分久而入深或二三寸或五六寸至其深入者則錘鋒貫幹出外者殆寸噫亦奇矣夫金之克木是其常而亦之好金此果何理也豈非神靈所憑不可以常理測者耶

其為威為福而世之尊奉唯虔固宜矣余嘗閱王世懋學圃雜疏曰贛州有鳳尾蕉好以鐵為糞將枯釘其根則復生亦異物也此即皇國所謂蘇鐵也又周亮工閩中談餘曰閩南郊外二十里有葦一株高數丈圍數抱歲結子大如榛而味甜苦取為果實性好鐵將枯釘其幹則復生亦異物也事雖相類無神異之可言則亦非其比也余奉命撰風土記天保壬辰之歲巡省此地有感神之威靈金光院前法眼真尊師來請曰願有記夫辨

其山川採撫異事余今日之任也義不可辭為記
其梗槩俾刻之石至其所以然之故非所得而論
也

天保六年乙未春三月 仁井田好古模一甫撰

○小祠五社

大宅辨財天社 村の西 辨財天社 村の東

水神社 村の東紀川の南崖 若宮 村の良の

八王子社 社地周八十三間村の坤二町

○極樂寺

村中よのり本尊無量壽如來安阿彌の作め

鐘八幡宮の本地佛といふ

○石地藏堂

境内周十五間村の良浦島といふ地

○幡掛松

村の良浦島といふ古き檫樹ふらふら老枯せ

一故其跡に松を幾度も植替へると今ハ若

木の松めく古の地を表らるるのこ

○舊家

地士 望月嘉八郎

○ 嘉永...
 ○ 勘世休
 ○ 天...
 ○ 勘世休
 ○ 勘世休

三谷村

美多尔 三谷

田畑高 二百二石九斗二升 三合九勺四才

家數 百四十一軒

人數 四百九十八人

兄居村の東十二町許より村名承久の文書

みりりるふ 高野村の東西中より三谷のり名義

是より起る山村ふりといはれ中みりりる平田多し

より當村より南の方天野明神へ二十八町ふり

○丹生酒殿明神社。古境内周三町二十九間

本社方一攝社方一祀神狩場明神

末社一社十二

皮張明神 皮付明神

土公神 大將軍

八王子 八幡宮

熊野權現 金峯山白山權現

信田明神 住吉明神

西宮明神 十二王子

本地堂 本尊彌勒菩薩 舞臺 寶藏

村中小河と一庄の氏神ふと按らるゝ貞和五

年の寄進状と三谷酒殿の河と天野社藏又石燈籠

并と花生ぬら丹生酒殿又酒殿との刻は丹

生酒殿を主ととと祀る事詳ぬと傳へいふ本

社丹生明神ハ 崇神帝の御宇大和國丹

生川上とと神を持ちと此地と降臨し給ひ後

天野村と移り給ふ故と森を柵山といふ丹生

明神此地と降臨の時初めと神酒を獻は是神

前と酒を獻は初めぬと故と又酒殿とと稱

とととと文暦元年の文書と御柵山去建曆

二年正月十八日奉納御寶殿又曰是為大明神

根本垂跡地之故也又曰御搦山者東限御手洗
谷南限天野横峯西限栗栖谷北限谷合也并天野
社藏之何ふ即此地也攝社狩場明神村中竈
門屋敷み〜誕生何りや〜小祭禮九月二十日
ふと○丹生明神降臨の地天野丹生明神の祝
辭み紀伊國伊都郡庵太村ミダの石口よ天降坐と
らと當村の東慈尊院村古庵太村といひ〜そ
ふよ降臨あ〜といふを恐らくら誤ふ〜
古庵太の名此邊より慈尊院村九度山村

の總名ふる〜
九度山村の良廣平の田地と
安田島といふ又庵田といふ書に

明神此地よ降臨の事と酒殿社別當福林寺寶
永中の鐘の銘及社記よ詳なと丹生狩場二神
の始末を天野社の條下み見申神主を天野社
神主丹生氏兼帯
別當 福林寺 榊山 護摩院
明神の境内よ何と本尊不動像七尋瀧より出
現ん式し弘法大師の作ふ〜といふ高野山
よ護摩料三石を附り釣鐘堂護摩堂といふ山

號鐘銘より神降山より

○竈門明神社 境内周十六間

社 方三奥津彦命 奥津姫命 合祀

村中竈門屋敷といふより神山の地主神より

丹生明神降臨の時煮焼をして御供を奉

は故より竈門明神と稱は右の由緒より依りて天

野社神職の輩社入りの前紀川より扱は百日當

社より参詣し幣帛を捧げ後社入りをぬかとい

ふ又天野總神主代替りぬか當社より來り始め

る装束を著し後神職より叙すといふ此地狩場

明神誕生の地ふと明神誕生の時此神産湯と

煖め奉る故竈門明神といふと此説恐ら

ふらん竈門屋敷より丹生明神影向の所より又

本地堂 本尊薬師如来 境内周二十五間

○小祠二社 社地周三十六間 札場 諸神社 社地周十六間 村領より

八王子社 社地周三十六間 札場

○龍谷寺 村中より

○梅林院 境内周三十間 札場の 境内方三町半より

○廢西明寺 境内周三十六間

村中より此所古墳多く残るに銘字漫漶して讀むべし。里民いふ此中より古の城主并は家臣の墓ありと云

○ 観音堂

村中より

○ 頼切地藏

境内周五十三間

村の南天野街道より紀川より十五町あり。自然石より大日地藏阿彌陀三尊を刻む中尊の頼少一切を大日

○ 七尋瀧

酒殿明神の南三町餘より懸泉纒より一丈許瀧壺を大いし深さ六尺許丹生明神始め降臨の地といふ瀧壺の水底より岩あり里民の傳へ小不動牛より乗り通し足ありといふ夏月雨を祈る必此地より來る

○ 宮瀧

丹生明神の西の谷より西崖壁立して懸水高きされ甚幽邃の地なり六月晦日天野神主社人六人を率て此瀧より胡瓜を供は是

い前胡瓜を食ふとやぬ村中小兒其供せ
し胡瓜を食へと疱瘡輕し河虎カウの患を免ると
て皆是を食ふとやぬ西眞堂立し了

○不動瀧

村中の山際よりかき瀧取り

○御供岩

柗山の南五町許より丹生明神天野御鎮座
の時三谷より御供を獻せし石あり

○鋒御跡岩

柗山の南十町權兵衛坂といふより丹生津
姫尊天野御通ひの印石といふ岩は鋒の跡

○古城跡

村の西奥谷といふより其東より土居谷とい
ふあり又泉水谷ともいふ此二谷の間を城屋
敷といぬ城屋敷の内南の方山の尾筋高き所
を城の壇といふ東西一町南北三町許の地を
此處田地より釋迦山矢倉屋敷矢倉堂樋の口

馬廻り天の峯ふといふ字あり又此下の田地
よ土居本土居之段門垣内泉水中屋敷ふといふ
ふ字あり皆古居城の時の屋敷地なりといふ
又土居谷よ方四尺の基石あり當城誰人の居城
に城の壇あり落にといふ
ぬらう詳ふらに村中よ川端氏といふあり城
主の家老の家といふ又大宅氏といふあり二
家老の家といふ土人の口碑あり三位中将桃
小太郎の城といふ此人吉野の花を見んとく
六田川邊まゝ行よ一家老亂をぬり城主六

田川めく自殺し其家斷絶といふ其説いふ

○上様堤

村の良四町許の堤をいふ 大猷大君高野
山大塔御建立の時材木を此地よ積み入り折
ふり大水出ると其材を流せり因りて堤を築き
り材木を集む 上の普請めく出来きり申ふ
上様堤と呼ふあり

○三谷堰

○村の東界より當村より西寺尾村まで掛き
と其間三十町許あり

○阿母御前墓

村の東山西垣内より山西氏藏む所の紛
失状は扱ふより明德頃の人あり山西氏の女
あり

○舊家二家

竈門新五郎

其祖を大伴常家といふ竈門明神の末裔あり
といふ常家竈門明神の神職たる家より文曆元

年の紛失状及建武二年住居事下知状一通を
藏む又建治二年天野社神職丹生友家より田
地處分の證文一通あり今に至る住居の地
を除地あり亦狩場明神御影一幅丹生氏より
常家へ附屬より藏む其文書ハ皆文書部より
出せり

山西政之進

家傳より其祖を散位坂上
裔より經之寛治三年より三谷村より住し此近

邊の地を領_レといふ家系_ノ寛治三年領地山の事_ハ因_リ諸裁定の解状并_ニ證判の文書を藏_シ其文_ハ依_リ考_スも經澄の先祖_ト此地を領_ル由_ヲ三谷の住居_ト寛治_トり_テ猶古き事_ハ又_ハ明德三年紛失状一通を藏_シ今按_ル同郡市脇村醫王寺_ノ大_ニふ古墳の窟_ハ其傍_ニ大_ニなる五輪の石塔二基_ハ一_ハ文字詳_ク一_ハ坂上長澄建之_トあ_リ是山西家の先祖_ト子孫左衛

門督經同_ノ天正年中豊太閤根來攻の時若山口を固免又根來西坂本を守_ル凱陣の後其賞_ト陣羽織_ト山西の苗字_トを賜ふ南龍公御狩の時當家_ト入_レ小兵庫助同志_ハ炮術騎射等御覽_ヲ三谷^谷領川筋_ニめ_テ鉄炮御免_ヲ安永年中百姓騷動の時鎮撫宜_シを_レ得_ル官_ニ銀七枚を賜ふ藏_シ所_ノの文書_ハ皆文書部_ニ出_セる

海邊の所々大書... 谷... 山... 河... 田... 村... 下... 野... 山... 藏... 平... 紀... 川... 端... 柏... 木... 皮... 田... 村...

平沼田村

北良奴多 小名 柏木皮田 九間

田畑高 百九石三斗四升三合

家數 二十六軒

人數 九十三人

寺尾村の西南五町ぬ河に當村皮張村の下よ
 河に大抵斜田梯田のミ弘安の文書 高野山藏 平
 野田郷と河に各義字の如くふるへ村の北
 紀川端は柏木といへ地あり皮田村あり

平沼田村

○祇園牛頭天王社

境内周百間

本社

末社二社

廳

村の東より一村の氏神なり祀神詳なり

皮張の村長いふ平沼田教良寺山崎三村の氏神
舊皮張村ふりて後勸請し分ち祀す
故に同神ふりて當村より祀園を祀す
やいふ或は合せ祀るの神を呼び来りぬら
本地薬師如
祭禮六月八日九月八日なり

○八王子社

八王子山

同境内周四十間

○阿彌陀寺

平村の北より

○地福寺 靈松山

境内周五十九間

村中より

○舊家

金川藏之丞

家系詳なり安永七年百姓一揆の時村方鎮撫宜きを得たり官より銀七枚を賜ふ

本村
 神社
 御祭日
 御祭神
 御由緒
 御領主
 御代官
 御領地
 御領石
 御領斗
 御領合
 御領石
 御領斗
 御領合
 御領石
 御領斗
 御領合

皮張村

迎波婆利

田畑高 九十六石二斗一升九合

家數 三十一軒

人数 百二十三

平沼田村の巽八町ありて村中皮張石ありて
 義是より起る一説に當村狩場明神ありて狩
 場村よりふらきを神名を避きて皮張といふ
 こと當村山の八合目より下より村居り田地

皮張村

斜田のくぬく文化元年八月連雨數日の後村
 の北の方北尾谷等々所方一町許陥る事二
 間許一處も崩壊せし唯形を全くして陥下は
 陥るに甚き所ありて家五軒許崩るといふ
 其下の方六七町の間或は陥る或は傾き或は
 地折けり亀文の如くありとや實に一奇事
 あり
 ○丹生狩場明神社 境内周四町十四間
 丹生本社二社 各方五尺

攝社祀神 十二王子天皇末社若宮
 御供所 神廳三禮園舞臺
 修正會堂 本尊阿彌陀佛
 藥師堂 般若經藏
 村中あり高野山と御供料一斗五升を寄
 附に平沼田村教良寺村山崎村の宮と皆當社
 あり分ちし高野先達の行所なり祭禮
 九月二十四日境内修正會堂藥師堂般若經藏
 村支配あり神主ハ天野社神主丹生氏兼帶

に當社の南二町許百合野明神の祠あり狩場
明神を葬ひる處あり又村中皮張石あり狩
場明神猪鹿の皮を此石に張し所ありといふ
亦狩場明神の像ありといふ青衫を着袴を着け
白黒の二犬を牽きし形を畫く又高野明神
の像ありといふ束帶し坐し丹生明神と相對
する畫像を高野山寺院にあり藏む

景行天皇の御時三野國牟毛津といふ所に
應神天皇丹生神社に神地を寄

記よ出
た

古事

給ひし時其牟毛津君の末裔に藏吉人といふ
人を天野神主系犬飼とて同く丹生神社に
寄奉れり是より依りて其子孫世々此地に住し
て狩獵を事とせしは大師高野山を尋求むる
の時其子孫の人白黒二匹の犬を牽き大師の
道に逢ひ高野山を嚮導せしあり青衫を着白
黒の二犬を牽きし此人の像あり後此人死し
て今の百合野に葬り大師の功ある人ありを
以て里人祀りて神とし狩獵をふし人ありを

人を

天野神主系
圖よ出た

犬飼とて同く丹生神社に

以て狩場明神と名つけ又土人の傳へよいふ
百合野の神五月三日を以て没れ故よ今よ此
日を以て此神の忌日として祭をかきとつふ
然も高野明神狩場明神ハ別の神めして狩
場ハ大師の時の人ふと高野明神を神せよと
高野よ鎮と坐る神よ同神よ何れ以後世大
師の高野よ至るを神靈よせんや欲は故よ高
野明神假よ獵者の形と現して大師を導きし
ふこといひて遂よ高野狩場を合せて一とに

今よ至りて其誤を受けて大に信を亂る辨せ
るあるへりて皮張村長いふ狩場明神の
没る時大師引導して百合野よ葬れよと此
説信を得たるなるへり皮張石等の説虚誕よ
りて亦門氏の記よ狩場明神ハ天野末社の
隨一ふとやいふ亦證とるへり神職天野社神
職丹生氏兼帯り
○百合野神社 境内周四十八間
村の巽明神の南登るとや二町許よ何れ狩場

明神の廟所といふ故に奥の院の名なり五月三日を以て没せと曰ふ此日を縁日とて相傳ふ古此地百合草能生ひ茂るに依るに名に

○小祠九社

辨財天社 村の南二町山の半腹より

赤田森社 村の北五町より

里神社 村の北一町より

伊勢森社 村の丑の方四町より

山神社 村の辰の方八町許より

氏神森 村の乾より土人狩場明神の地といふ

三社森社 三扉 村の北十町

琴御前社 村の乾より土人狩場明神の地といふ

荒神社 村中門氏の庭前より相傳ふ狩場明神の三男を此地に葬れり曰りて荒神と崇敬す

涼光寺 境内周十六間

明神の下より

○小堂二宇

釋迦堂 境内周十六間村の西七町許より

薬師堂 村中より

○古城趾 一を東城趾といひ一を西城趾といふ東西三十間許と隔つ俱に村の南八町より各方二十間許の地なり今掘の形なり誰の城なり

教り詳ぬるは

○皮張石 村の東山上より長一丈許幅四尺許の石ニ

跡と云ふ形似きを以て名つくるか

○石面平めて木口切、如く面は犬の足

と相傳ふ狩場明神猪鹿の皮を此石に張くと

いふ

○皮付石 門氏の入口より長六尺許幅三尺許又門石

ともいふ山臥の行所なり

○鳥帽子岩

皮張石も同所あり又三石ともいぬ

○杖松

明神の西一町田中より明神杖をさし給へ

其木生ひ出たりやいふ先年此樹枯しゆ

今社地の西數歩より松を植へ杖の松といふ

○舊家

門氏

當家ハ明神より由緒あり舊家なりとそ居屋

敷東西十五間南北十間除地あり

○其巻

門

利令孫此の西邊者長林又麟志と林也此の

其本也出りも亦其心共平岡樹林也

岡林の西一田中似向も腹林也

○林深林小行馬明神猪鹿の

史聚より同所とあり又三

○高野七宗

門此の山相の林成るは許

願友淵庄の登尾夫知

流石岩瀧村山中

志賢の林村

此は結久保村

清川村

日高村

鳥淵村

南地村

友淵莊総十六箇村伊都那賀兩郡

庄論

都ふ河ふるもの七箇村其餘九箇村を皆那賀郡に
屬に其當郡は河ふるもの四村莊及志賀莊の西に
ありて南に長谷莊と界に北に那賀郡麻生津莊
小接し西に那賀郡同莊本川村と界に當莊は志
賀莊と東西相對し地形屏風を引違へたるの
如し故に里人各一つ布て屏風をいふといふ友淵
志賀の界岩を鑿り穿ちて街道と名つけり狭
がといふ此地山中にありて一とも衍沃の田
頗多し清川の邊最廣平なり其他は那賀莊論に

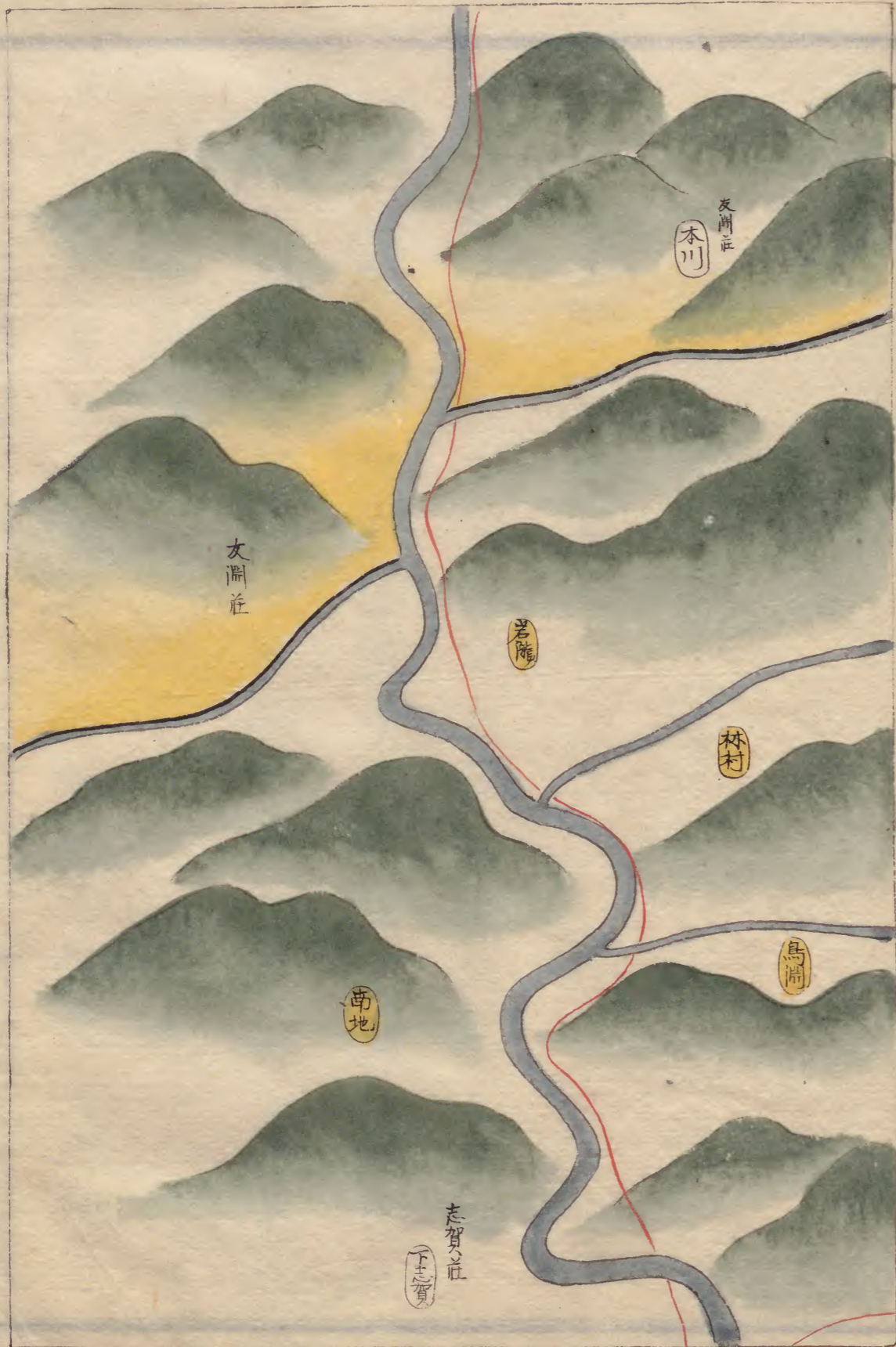
詳ぬ

○三里峯

莊の東南にありて友淵長谷志賀三莊の界なり

○友淵川

東の方志賀莊より流を來りて當郡の友淵莊を
流し事三十町西の方那賀郡の友淵莊本川村
に注ぐ此間谷川三河より友淵川に落つ東にあ
るを日高谷といふ日高鳥淵二村此谷より西に次
を清川谷といふ清川林二村此谷より西に河





岩濠村

四江高 一十一百八十八年...

村心... 岩濠村...

西... 所... 東...

東南... 東...

...

...

ふと久保谷といふ久保村此谷より

○郡界

東南三男峯より西の方八幡山の峯筋を見通し
西北飯盛山の東峯に至るととて清川村古城
趾の頂よりいさゝを伊都那賀両郡の界とす

岩瀧村

以波多喜

田畑高 四十一石八斗三升七合九夕

家数 十軒

人数 三十三人

那賀郡本川村八幡宮の巽より村中岩瀧といふ瀧あり懸泉一間餘大岩錯落たり故に名
と云瀧壺甚深し八幡宮の下より水を以て又
八幡淵といふ八幡宮祭禮の時社人此所小

ハラヒ
救禊

○瘡神社

社地周二十三間岩瀧の

○地藏堂

同所 東一間 繪太鼓 繪太鼓 造り成

此の如き 三十三間 非有 西郡の界

東津 十棟

田畑高 四十一畝八斗三升六合

田畑

以起り喜

林村

波也志

小名 向井

奥澤

田畑高

九十石七斗二升八合

家數

二十五軒

人數

九十三人

岩瀧村の良十二町より此村上番の本郷

より中央より他村より此村より出きりとい

ふ名義舊松林ふやのりて切開き村落を

ふより起るふはへり小名二の東より

林村

るを向井といひ乾よめるを奥澤といふ

○金毘羅社 村の東山上より上番中の氏神ありて祭禮

六月十日より 此社土番の本社

○小祠五社 以上三社小名

辨財天社 向井より

申神社 以上二社小名

不動森 奥澤より

林

久保村 俱煩

久保村

俱煩

田畑高 四十石三斗五升

家數 二十軒

人數 九十三人

林村の乾二十五町より當村より清川村

越ゆる峠を小久保より灣より

○小祠二社 一ハ村の東一町半より

○藥師寺 一ハ村の南二町より 境内周三十六間

村中よ何とて祈禱寺ふと本尊薬師も弘法大
師筑紫の温泉に至り一時の作めく温泉の本
尊ふりよ天正の頃立花飛驒守高野詣の時
當寺に贈ふていふ釣鐘堂何とて清川村

○薬師堂

村中よ
何とて十三人

八幡林

神楽
二十神
八幡堂
田畠高
四十五
三十五

清川村

喜餘迦波
西由子
三古の界

精里
田畑高
五十九石四斗七升六合
自水十間

家数

二十軒

人数

七十六人

莊中東北の隅よ何とて清川を谷川の名を取

りて村名なり

○小祠二社

八幡宮

村の西三町よ何と

八王子森

村の乾二町よ何と
神木のミメケ社

清川村

○清見寺 清瀧山

境内周三十七間
村の東より

○地藏寺 境内周四十四間餘

村の寅卯の間五町許高野街道御所村の境より
本尊地藏石佛ふり里人田和地藏と稱す

境内は大方古松あり

○古城趾

村の北六町餘山上より平坦の地周八十間
許里人楠氏の城趾といふ此地東ハ四村莊御

所村領北ハ麻生津領西南ハ友淵領三方の界

ふり

○旗立石

村の丑の方六町高野街道の東より織田氏
高野攻の時高野の催促に随ひて林莊司の両
家兵を出して此峯に陣し旗を立て石ふり

ふり

日高村

比陀迦 小名多間

田畑高 四十七石九斗九升二合

家數 十六軒

人數 六十人

清川村の巽山を隔て、十町よりの當村山の
原に村居して四村並日高村と東西よりの
嶺筋を限り、大抵麻生津とこの高野街道
其界不了名義四村並日高村と同一當村を林

氏譜代の者居住せし地なりと云々今に至りて
庄中の座席あり末席より列に氏神の座あり床
の上より登るありを許さざりし小名多間本
村の坤あり

○小祠二社

山神森

村の西二町
許より

塞神社

小名多間
より

○大師腰懸石

村領高野街道の傍妙山手より二尺五寸より
五尺許の石あり

鳥淵村

登理夫智小名山戸

田畑高 七十三石九斗五升六合

家数 十五軒

人数 五十七人

○日高村の南山を隔て、十町許より庄の極
東あり志賀庄と界に小名山戸を村の西二町

○小祠五社

鳥淵村

愛宕社

村の東一町半
許より西

大將軍社

小名山戸
より西

大日森

村の丑の方三町
許より西社あり

不動社

村の南三町
許より西

稻荷社

小名山戸
よりあり

○地藏寺

境内周三十六間五の社

小名山戸字芝とふ所より西祈禱寺ふ境

内は經藏あり古當寺より古き半鐘あり銘は河

内國立間村立間寺とあり里人傳へふ楠氏

清川村の城より一時の陣鐘ふとや安永

年中若山覺樹院とあり所望あり新らより半鐘

及大般若經一部と交易は公家の厩覺樹院

と隣は先君香嚴公厩を視給ふ事あり其鐘

聲を聞かせ給ひ此鐘は國を利せむとのたは

いゝ命して他國より販りて今轉して京都

本願寺より西ありふ

南地村

美奈美 遲郡 小名北原

田畑高 百一石二升八合

家數 二十八軒

人數 百三人

○鳥淵村の坤友淵川を隔て十町許より並
中の極南ふふと南地と谷と小名北原川
を隔て北よ河を領し開拓成集村林石田
○辨財天社 境内周三十間餘

本社二社 一社三尺二尺 一社方三尺

小名北原と久保村との間より村中林氏の先祖の崇奉せし神といふ今上番中の氏神と

○小祠六社 村の東五町 許より

大將軍社 村の辰の方町 許より

大日社 村の西五町神谷 許より

公文司社二社 小名北原より氏神 八幡宮の末社なり

○松林寺 南天山 境内周四十八間

南村中より境内腰折地藏といふ石佛より

腰より割れし腰痛を憂ふ者祈ま

靈験ありし昔境内よ昔松の取とて 寺號といふ今ハ枯ました

○吉禰寺 境内周六十二間

村の南三町より本堂より寺より西二町半より

僧坊釣鐘堂等あり

○釋迦堂 村の南一町 半許より

○舊家二家 地士 林佐次兵衛

家傳より小當家より鎮守府將軍藤原時長十四世の孫林彌次郎家朝の末裔より世々當庄

の公文職を以て今よ諸役免許めく屋根替の時
 莊中家毎よ第刈人夫一人の車を出以て天正十
 五年豊太閤より播州よ於て百七十石を賜ふ
 其朱印左よ載以て其他系圖古文書及旗一流河
 播磨國飾東郡西多村内六拾五石同國分寺内
 百五石合百七拾石宛行託全可領知者也

古文書
 古文書
 古文書

天正十五
 九月廿四日

朱印

小林與平次との

小林氏

武田信玄より與へりといふ武器を藏む其祖
 武田家の浪人ぬらん

麻生津より高野街道より巽の方聖峠を越ゆ
 るを長谷街道より細木峠の東市峠を越ゆるを
 四村街道より此地民風質樸め多く茶を植て
 産業の助あり
 ○志賀谷
 北の方天野川より流を來りて村の東梨、木峠の
 下大橋に至りて折れて莊中を貫きて西の方友
 淵莊に注ぐ其間小谷三つあり東の方梨、木峠巽の
 方聖峠坤の方三里峠より出る谷みち此谷より落つ



志賀村
 之我
 村居六箇所
 善法
 下志賀
 中志賀
 鍛冶谷
 經師垣内
 田畑高
 二百九十三石八斗五升一合
 家數
 六十七軒
 人數
 四百三十二人
 當村小名六箇所
 分る友淵莊南地村の東十
 五町許
 下志賀の東三町
 下志賀の東五町
 下志賀の東三町

志賀村

之我

村居六箇所

善法

下志賀

中志賀

鍛冶谷

經師垣内

田畑高

二百九十三石八斗五升一合

家數

六十七軒

人數

四百三十二人

當村小名六箇所

分る友淵莊南地村の東十

五町許

志賀村

を中志賀といひ中志賀の東二町よりのを上
志賀といひ上志賀の東四町よりのを鍛冶谷
といひ上志賀の北十八町よりのを經師垣内
といひ經師垣内より豊太閤花園莊大瀧村辨財
大へ法祭料を寄附せらるゝ地ぬり經師の名
是より起る二百五十三八十一合

○丹生高野四社明神社 境内周七十二間

本社四社 各金扉

志賀一宮 方七尺 祀神丹生明神

二宮 方七尺 祀神高野明神

○三宮 方六尺二寸 祀神八幡宮

四宮 方六尺二寸 祀神嚴島明神

末社三社

摩利支天社 假屋社 太神宮
下司社 春日社

御供所 舞臺 長床

本地堂 本尊 般若經藏 中門

中志賀の中央より一莊の氏神あり古當莊
の領主下司房六の勸請といふ是より前ハ大

隆寺の天神を氏神とせしむる祭禮十一月八日

○假屋明神社

境内周八十間

下志賀の良高野街道曲折の所よはる相傳ふ

後鳥羽帝駐蹕の時御假屋を此地よ建つ後

世太神宮祇園を合祀して名つる假屋明

神といふ覺束ふ假屋を假宮の事ある

社四尺よ二尺八寸

○下司明神社

下志賀の川の北一町許殿原といふ所歩の除

地よはる古下司彦六定本といふ者此地を領

り村民其人を祀る下司明神と尊崇はる

ふ又後鳥羽帝より定本よ賜る

宸筆の不動尊を合せ祀るといふ今其不動を

高野山の上よ移せとも土人猶下司不動堂と

稱は地を殿原と呼ぶ下司彦六の屋敷跡ふ

る故ふるとせ

○善女龍王社

境内周四十間

氏神の良三十町許上志賀よはる社方四尺并

殿のりて月... 御持主... 尊貴... 寺... 五... 四... 八... 拜

○小祠二十社

八幡宮五社 稻荷四社

八王子二社 祇園二社

辨財天二社 天神社

愛宕社 勝子社

小社二社 神名詳ならず以上二十社村領所々々散在

○大隆寺

中志賀村の東二町より本尊不動明王古佛

○大日寺の側より観音堂 方五 何より今當寺の本尊

とい甚古堂あり柱みふ蟲くらいたる本尊観音

又甚古佛あり毎年正月十日此堂あり大松明

を燃し鬼の面を著け鬼の装束したるものを

追ひし堂内を驅せ廻る事あり遠近群湊は名

つ希く鬼走りといふ 筑前住吉社及境内天神所々々あり

社あり古の氏神といふ又辨財天社釣鐘堂寶

藏あり末寺三箇寺皆村中よりあり

○大日寺

村中大隆寺末境内周三十六間上志賀よりあり

○ 観音寺

村中大隆寺末中志賀

○ 阿彌陀寺

村中大隆寺末下志賀

○ 小堂八字

村中大隆寺末下志賀

観音堂

下志賀

薬師堂

下志賀假名

彌勒堂

下志賀

薬師堂

下志賀

阿彌陀堂

下志賀阿彌陀寺

大日堂

上志賀大日寺

不動堂

氏神の西一町中志賀の山上

地藏堂

上志賀梨木峠の茅五

○ 古士

下司彦六定本

定本

後鳥羽帝高野

行幸の時嚮導

お奉る其賞とて宸筆の不動を賜ひ又

志賀の下司職に任せらる因とて代々此地に

住して領主たる當莊を賜ひし由緒并に當莊

四至界を彦六親書して莊の産神の寶殿及觀

音堂に藏めしといふものなり其文書文治五

後鳥羽院高野御参詣の事載せたる文治十

御称號の羊號ふれし此時後鳥羽院の

部より出後觀音堂焼失して右の文書灰燼とす

まともも神殿の文書も存り村民此四至を守り
隣村の界論を防ぐといふ定本子孫某いつの
時か有らん敵の爲に胸を射貫まゝ死した
るまき 断絶はといふ

○古墓

下司明神の西一町許田中より彦六の子孫

胸を射らるゝ死せし人の墓ありと傳へ今に至
るゝ胸を痛むる者祈願すれば必靈驗ありと
いふ

書寫

増田正平

圖畫

菟川遊原
野際蔡春

校合

神野聰一郎
原 甲 吉

書



昭和三年三月三日
師國正流

